

**早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター  
国際芸術・学術拠点構想研究会(A&S 研究会)主催  
シンポジウム「福島復興に必要な国際教育研究拠点とは何か？」**

**趣旨:**

福島復興に関連して、復興庁は福島県浜通り地域に「国際教育研究拠点(廃炉技術、ロボット、再生エネルギーなどに関する新たな国立研究開発法人)」の設置を構想しています。早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンターは、復興庁・有識者会議「最終とりまとめ」(2020年6月)で提案されている廃炉技術やロボットなどの研究開発といった狭い科学技術研究だけでなく、福島原発事故の教訓を踏まえた学際的な研究教育や地域社会の歴史や芸術文化との関係性を重視した新たな「知の拠点」を整備することが、福島における「復興と廃炉の両立」と日本社会の未来にとって不可欠であると考え、国際芸術・学術拠点構想(Arts & Sciences 構想、A&S 構想)を提案してきました。本シンポジウムでは、国立民族学博物館の小長谷有紀先生に、民博創設者の梅棹忠夫生誕100年記念もかね、「梅棹忠夫の構想力から福島浜通りにおける新たな国際教育研究拠点を考える」と題するご講演をいただき、その後、A&S 研究会メンバーと「福島復興に必要な国際教育研究拠点とは何か？」をテーマにパネルディスカッションを行います。

**趣旨:**

福島復興に関連して、復興庁は福島県浜通り地域に「国際教育研究拠点(廃炉技術、ロボット、再生エネルギーなどに関する新たな国立研究開発法人)」の設置を構想しています。早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンターは、復興庁・有識者会議「最終とりまとめ」(2020年6月)で提案されている廃炉技術やロボットなどの研究開発といった狭い科学技術研究だけでなく、福島原発事故の教訓を踏まえた学際的な研究教育や地域社会の歴史や芸術文化との関係性を重視した新たな「知の拠点」を整備することが、福島における「復興と廃炉の両立」と日本社会の未来にとって不可欠であると考え、国際芸術・学術拠点構想(Arts & Sciences 構想、A&S 構想)を提案してきました。本シンポジウムでは、国立民族学博物館の小長谷有紀先生に、民博創設者の梅棹忠夫生誕100年記念もかね、「梅棹忠夫の構想力から福島浜通りにおける新たな国際教育研究拠点を考える」と題するご講演をいただき、その後、A&S 研究会メンバーと「福島復興に必要な国際教育研究拠点とは何か？」をテーマにパネルディスカッションを行います。

**主 催:**早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・国際芸術・学術拠点構想研究会(A&S 研究会)

後 援:福島イノベーション・コースト構想推進機構、早稲田大学アジア太平洋研究センター

日 時:12月22日(火)18:00-20:00

開催方法:オンライン(Zoom ウェビナー)

司 会:秋光信佳(東京大学アイソトープ総合センター教授、A&S 研究会副代表)

講 演:

小長谷有紀(国立民族学博物館客員教授・日本学術振興会監事)

「梅棹忠夫の構想力から福島浜通りにおける新たな国際教育研究拠点を考える:梅棹忠夫生誕 100 年記念」

パネルディスカッション:

小長谷有紀(国立民族学博物館客員教授・日本学術振興会監事)

青木淑子:富岡町 3.11 を語る会代表、3.11 メモリアルネットワーク理事(福島県富岡町)

吉田恵美子:NPO 法人・ザ・ピープル理事長、いわきおてんと SUN 企業組合代表理事(福島県いわき市)

南郷市兵:福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校副校長(福島県広野町)

阪本真由美:兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授(災害復興学)

洪 恒夫:東京大学総合研究博物館特任教授(空間デザイン)

松岡俊二:早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授(環境経済・政策学、A&S 研究会代表)